

# 令和5年度 第1回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和5年7月14日（金） 午後1時～2時30分

場 所： 市役所金剛連絡所2階ホール

委 員：出席者14名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）、友田 研也、新里 恵美、溝口 俊則、  
吉村 明、小野 達也、廣崎 祥子、島岡 秀行、木全 剛司、占部 訓司、  
今西 佳子、品田 忠司、森木 和幸

欠席者3名

喜多 忠、大山 美里、駒田 直紀

事務局：4名

【富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室】

塚本 隆之（室長）、松本 憲昌（室長代理）、竹川 智也（主査）、  
小川 公也（副主任）

1名（コンサルタント）

【特定非営利活動法人きんきうえぶ】 寺田 誠

会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）：1名

【株式会社ダン計画研究所】 上岡 文子氏

傍聴人：0名

会議次第：1. 開会

2. 委員紹介

3. 案件

（1）金剛地区再生指針の進捗について（令和4年度）

（2）金剛地区再生指針の取組予定について（令和5年度）

①まちづくり会議・運営会議の運営について

②各部会・プロジェクト等の取組について

③市が進める取組について

4. その他

5. 閉会

開催形態：公開

会議録：全文筆記

### 1. 開会

(事務局：塚本)

- ・開会、議事進行にかかる留意事項の確認等
- ・資料の確認

### 2. 委員紹介

(事務局：塚本)

- ・委員紹介
- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることを報告

### 3. 議事

(増田会長)

皆さんこんにちは。今年度初めての1回目の会議ということでございます。よろしくお願いいたしますと思います。

一応2時半を目途に議論を進めて参りたいと思いますので、よろしくお願いいたしますと思います。

それでは議事次第の中の案件に(1)と(2)がございますが、まず(1)金剛地区再生指針の進捗について、令和4年度の進捗状況について、ご報告をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：小川)

事務局より資料2について、抜粋して説明

A3の詳細資料については、各自でご確認いただきまして、お気づきの点などございましたら、個別に事務局まで連絡いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(増田会長)

ただいま、令和4年度の再生指針の進捗状況について、概要報告をいただきました。何かお気づきの点があれば事務局にお伝えくださいということですが、今この時点で何かご意見とかご質問はございますでしょうか。いいでしょうかね。毎年、粛々と取り組んで、赤字で示しているように、何点か新しい取組も展開しているということかと思います。どうもありがとうございます。

それでは、令和5年度、もう大分進んでおりますけれども、金剛地区再生指針の取組予定ということで、3点。まちづくり会議、運営会議の運営についてということ。各部会プロジェクト等の取組について、それと市が進める取組について、一括してご説明いただいた後、各々ご担当いただいている皆さん方にもご発言いただきながら前に進めたいと思いますので、まず、1、2、3一括してご説明いただければと思います。よろしくお願いいたしますと思います。

(事務局：寺田)

資料3-①まちづくり会議・運営会議の運営について説明

資料3-②-1 「各部会・プロジェクト等の取組について（わっく Café）」について説明  
資料3-②-2 「各部会・プロジェクト等の取組について（金剛マルシェ）」について説明

（友田委員）

資料3-②-3 「寺池公園等を活かしたまちづくりの会」について説明

（上岡氏）

資料3-②-4 「KON ROOM」について説明

（事務局：小川）

資料3-③-1 「市が進める取組について（大学連携）」について説明

（事務局：竹川）

資料3-③-2 「市が進める取組について（ウォーカーブル）」について説明

（増田会長）

よろしいでしょうかね。（2）令和5年度の再生指針の取り組み予定、あるいは取組状況についてご報告いただきました。前から順次少し意見交換をしたいと思います。まちづくり会議、運営会議の運営に関して、何かお気づきの点はございますでしょうか。いかがでしょうか。今までまちづくり会議便りみたいなニュースレターというのは発行されてこなかったですかね。

（事務局：寺田）

以前は、ニュースレターを発行していたのですが、2年前か3年前から中止しています。

（増田会長）

ここで書かれてるまちづくり会議の紙媒体によるPRとか作成ということが今年度の目標となっていますけども、もう一度復活させるようなことなんでしょうか。

（事務局：寺田）

前回のニュースレターでいくと、随時ですね、ちょっとニュースレター発行後、2か月先を目途にこんなイベントありますなどの説明を載せるっていうものだったんですけども。どちらかというと、A4であったり、サイズはわかりませんが、それを見たらまちづくり会議が何をやっている場所なのかっていうのが分かるような、普遍的なものをちょっと一つ作りたいなというイメージに近いと思います。

（増田会長）

便りというよりも、まちづくり会議のリーフレット案みたいな。なるほどわかりました。

はい。友田委員。

（友田委員）

もう一つのまち参加者の獲得なんですけれども、今地区まちづくり会議についても、いろんな事業をするにしても、やっぱりメンバーがわりと固定してるんですよ。我々プレーパークするにあたって、自治会なんかいろいろと周知してくださいねとかお願いしに行こうとしても、自

治会の方々がこういう活動内容を全然知らないみたいなのという状況もかなりあるので、やはり我々自治会の方にもっと周知していく必要があるのかなというふうに思ってるんですよ。

自治会のメンバーって毎年変わるので、やっぱり年度当初に自治会の役員が変わったならば、自治会の役員新しい役員全員が参加するようなフォーラムを毎年開いた方がいいと思います。やっぱり、その年度までの各々の地域の活動状況であったり、今年度の市の方針であったり、そして、そこに講演会ぐらいも加えながら、この自治会の役員さん、少なくとも役員さんは全員知ってるような状況を毎年積み重ねることによって、広がっていくので、そういう場を毎年開くっていうことが大事かなと思っています。ということが一つ。

(増田会長)

簡潔に話して下さい。

(友田委員)

はい。それと、この次の将来像はまだですよ。

(増田会長)

いやいや、ここで言って下さい。

(友田委員)

はい。将来像の共有ということで、ピュア金剛跡地について、あの場所ってものすごい地域にとって有効な場所だと思ってるんです。それに対して、可能性もかなりあるので、どういうふうな使い方をするかっていうのはURの方々と地域と一緒に考えていきたいんですけども。やはりあの地域としてもね、ある一定の意見はまとめていかないといけないと思ってます。ただそういったことを市を通してURさんは聞くというのではなくて、やっぱり地域の声を直接聞くという場を設けていただいて、やはり地域の方々が参加しないとああいう場所って、継続的に運営できないですから、いかに地域を巻き込む参加意識を高めるってことが大事なので、ここはこういう場を設けていただきたいなと思っているのでよろしくお願いします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。いずれもご提言ということで事務局の方で一度ご検討いただければと思います。よろしいでしょうか。何かUR。ダイレクトな回答はないと思いますけども、ご検討いただくということで、あとでまた、トータルとしてお話をお聞きしたいと思います。ありがとうございます。よろしいでしょうか。

一つは、何らかの意味で周知は、対面型のセミナーなり、そういうことをした方がいいんじゃないかという話と、住民の参画というのはピュア金剛跡地を考える上では不可欠となってくるとのご指摘がございました。次いかしていただいてわっくカフェいかがでしょうか。

ご説明いただきましたけど、取り組んでいただいております、中井さん、あるいは廣崎さん補足でございますでしょうか。廣崎さんからいきますか。

(廣崎委員)

はい、カレー食堂の現状についてお伝えさせていただくと、土曜日っていうのは親子でいっぱい遊びに来たりっていうことがあったんですけど、水曜日が夜っていうのと、なかなか子どもだけで、最初はなかなか来なかったんですけども、今では、もう5時をめざして、4時半ぐらいから子どもたちが銀座街商店街で遊んで、カレーできた？って言いながら5時にやってくるっていう姿が定着してきたかなって思っています。

そして、3ヶ月前ぐらいから、伏山台小学校区の小学校の学童の子どもたちが、月に何回か保護者がすごく親しく集まっているみたいなんです。

子どもを集めて、何人かの保護者と一緒に遊ぶっていうことをされていて、その会議に寄るねっていうふうなことが始まりまして、この3ヶ月ほどは水曜日も、6時過ぎぐらいから大勢の子どもたちが来てくれるっていうふうになっています。

そういった子どもたちがいっぱい来てくれるようなことがすごく良いことだなあとと思う反面、集団で来られる子どもたちはすごく多分安心感があってその場所で過ごされるんですけども、この間、私が受付にいてた時に、子どもがちょっとぼそって言ったのが、知ってる子おるってつぶやいたんですよ。

そこがすごく親しい中だったら、「わあっ〜」てなるんでしょうけど、ちょっと気まずい関係性というか、向こうはいっぱいいて、自分は1人で、家族の分を買いに来ている、そんな状況だったので、なんかそうやってやっぱ人数の多い人の方が居心地のいい場所にならないような対策をやっぱりしていかないといけないなと思っています。はい。以上です。

(増田会長)

ありがとうございます。子どもの居場所づくりって非常に大事。KON ROOMなんかも結構増えてきてると。ただそのときに、不登校生みたいな方々が来られてるのか、あるいはそうじゃない、先ほど少し言った子ども会とか、何らかのグループで、そういうポジティブな形の子の居場所になってしまってるのか、というような問題と、ちょっと小野先生にも教えてもらいたいんですけど、よく、子どもの不登校生なんかのサードプレイスができる時に、相談停滞みたいなことが起こらないかと、色んな相談がだんだん寄せられたりするわけですね、そこで、停滞を起こしてしまうのではなくて、何らか次のちゃんとした心療内科なり、繋ぎみたいなことが非常に必要になってくるんだろうと思いますけども。その辺がどう考えたらいいんでしょうかね。

(小野委員)

はい。この、このスライドの前のやつで、ちょっとこの図ですよ。ですから、おそらくこれを考えて、かなり工夫して運営しようという意図がわかりやすいですけど、この図を見ていただくと、いわゆる子ども食堂っていう純粋な枠っていうのがあるとすると、それが、右上の方ですか。無料で提供して、そこで食事とか取れない子に対しても取れるようにしていこう、そういう場っていうのは一つ最初の頃の子ども食堂のイメージにあったに対して、こちらでやられてるカレー食堂っていうのはちょっと違う形で左下の方ですよ。

まあそこで皆と繋がったり、その中でもうちょっと助けるとか、そういう割合も入ってくるような、そういう場として、運営していこうっていう、そういう意図でしたので、すべてのことを

すべての一つのところでやればもちろんいいんですけども、なかなかそれは難しいっていうのが分かってきていて、やっぱり今のどうしても福祉的な発想をしてしまうと、何か問題を抱えている人たちに来て欲しいなあとか、大変な人たちに来て欲しいなと思うんですけども、そうになると、そういう場だっていう風な色が一度ついてしまうと逆に行きにくくなる。なんかあそこに行ってる子はこんな子だって見られるのは誰だって嫌ですから、なかなか行きにくい。だからできるだけオープンな場を作っていこうっていう流れができてきていて、オープンな場を作るといえるような人が来れるようになります。

でも、さっきね、紹介していただいたような、オープンな場なんでじゃあ友達みんなで行こうよ、みたいな子が来た時に、そういう輪に入れない子どもたちは逆にほんとはちょっと行きにくくなるっていう雰囲気のご紹介だったんですね。ですからその場を、先ほど見ていただけてるっですごく重要で、そういう子がやっぱり、どういうケアをしたらいいのかっていうのが次の段階が今ですよ。

で、増田先生がおっしゃったそこでちょっと課題が見えてきたときに、いきなり専門職に繋ぐかどうかは別としても、そういう子と、ちょっと何て言うか、グループが違う子何かの関係があるときに、同じような場であつたらいいのか、またもうちょっと違うアプローチを考えるのかっていうのが、次の段階に入ってきているので、まあそこまできたっていうふうに前向きにとらえた方がむしろいいのかな。

だから、ここはここで図の中でああいう形でやろうとしてるところである程度、先ほどの、数が増えてきてるっていう、利用者が増えてきてるっていう状態がありましたので、それをやりながら、多くの場を作りながら、そこで見えてきた課題に対して、次の段階としてどう考えるかっていうところを、やっていくという、前向きに少し見えた方が何か発展してきそうな感じがします。

(増田会長)

はい。貴重な意見ありがとうございます。

多分、第1段階から第2段階になってくるとそういうふうな問題が発生してくる。あるいは第3段階にいったときにどう対応するのかと、いうところへ、常に前に進んでいきながら、考えていくってことなんでしょうね。ありがとうございました。

(新里委員)

あの居場所というところで、まちづくりとして、今わっくができた、KON ROOMができたっていうところでね、ちょっと収まってるっていうのが、果たしてそれでいいのかっていうのは前にも私提案させてもらったと思うんです。

で、子ども食堂もそうで、高辺、久野喜っていう小学校が他にもあるにも関わらず、多分、このわっくカフェにおいては、寺池台小学校が中心で、あと伏山の子たちも来てるということで、かなり広い範囲で、子ども食堂としては、活用できてると思うんですが、でも、これでいいのかっていうところを、やっぱり自問自答した方がよろしいのではないかと思っております。

(増田会長)

多分、私なんか泉北ニュータウンでもやってて、まあ一個いい事例ができれば、そこが、例えばわっくカフェが第二のわっくカフェを出すというよりも、各々校区ごとでそういう活動もわっくカフェをモデルとして新たな担い手がある一定のわっくカフェ的なものを作っていただけという、そんな発展形態をニュータウン全体として考えていく必要があることかと思えます。ご指摘ありがとうございます。他、中井さん何かございますかね。

(中井副会長)

先ほど廣崎さんの方から、子ども食堂についての説明があったので、私の方からはそれ以外の子ども食堂ですね、月2回しかしませんので、常時わっくカフェ、基本的には、火曜から土曜まで。10時から2時までは絶対開けるという基本がありまして、それについてはオーナーさんが入られるというときはオーナーさんでやっていただく。

オーナーさんがいないときは、創設メンバーの誰かが開けていくという形で今のところ維持しています。最近ちょっと変わってきましたのは、夜ですね。前からあったんですけど夜が入らないという話があったんですけども、3時から8時ぐらいまで空けとくことができる夜の部なんですけども、それにいくらかオーナーさんが入っていただけると。逆に夜なので、オーナーさんの方でも食事中心じゃなしに、飲み屋っていいですかね、アルコールを提供しながらあてを提供するというのもいくらかできています。週のうち2日か3日、まあ2日ぐらいは夜も回るようになってきたというのが最近の傾向ですね。

それによっても地域の方、逆に昼間は来れない方がおられまして、そういう人たちがお年寄りの方が、その時によっては、わいわい言っていただける場がちょっとできてきて、子どもの居場所としてのカレー食堂、大人っていいですか、地域の人がおれる本来のわっくカフェの居場所づくりが徐々に進んでいるように思います。

もう少しやっぱり運営の方からいきますと、今さっきボックスショップっていうのが、説明ありましたが、ああいうあれがですね、固定的な収入源として確保してまして、それで今何とか運営をやっているということで進めておりますけども、もう少しオーナーさんが入ってくれて、現在固定化してきている部分がちょっとあるんでもう少しそのいろんな人がいろんな種類の、カフェを開催してもらおうというのは次の目標かなというふうに思っております。

(増田会長)

はい、どうもありがとうございました。もう一つには次は金剛マルシェいかがでしょう。木全委員、あるいは、これも実際運営していただいているのは中井さんなんかも、詳しいですかね。

まず、木全委員からお願いします。

(木全委員)

そうですね、最近はお子さんへの周知が結構行き届いているのか、イベントもたくさん行なって、実行委員の方で行なっているので、たくさん来てくれるようになったかなあと。

以前は野菜がメインで野菜頼みなどところがあったんですけど、それが解消できてきてるかなあという、今最近の印象を受けますね。

はい、そして、実行委員が立ち上がっていろんなことを様々な方とも連携して、出店者も増え

ましたので、これをさっきね説明あったように、集客っていうところにおいてそこをもうちょっとしっかりやっていけたら、安定的なことが継続してできるかなと感じております。はい。

(増田会長)

はい。中井委員どうぞ。

(中井副会長)

マルシェのことにつきましてはですね、マルシェ開催日に合わせてわっくのカレー食堂をやるという形でその人を呼ぶということをやっておりました。実際マルシェの方でいろんな方がボランティアで出店していただいて、先ほどの阪南大学の人も出ていただいてベビーカステラかな、そういうのも売っていただいています。

ただカレー食堂2時で終わるようにその商店出してもらっている店もですね、だいたい2時か3時に終わってしまうんですね。野菜の方はですね、4時から来るので、その間人が途切れてしまってるという状況がありまして、ここを何とかうまくつないであげる方策が要るのかな。と思っております。

(増田会長)

はい。お客さんがどっと定着できるようにということかと思えます。ありがとうございます。

あとこのマルシェで、もし、売れ残った食材みたいなやつを、例えば子どもカレー食堂へ食材の寄付行為というふうに展開させることが可能ですか。あるいはこどもマルシェが食材の寄付みたいなやつを受けてないのでしょうか。

(中井副会長)

マルシェの方であまり食材が残ったっていうのは、聞いたことはないですね。野菜販売は、残ってる可能性もあるんですけども、カレー食堂の方は一応市を通じて、野菜等の寄付は受けておりまして、地域の方からも、お米の寄付をもらったりといろいろしております。

それで運用はしてるんですけども、それだけでは当然足りないから自己資金で買うということになってますけども、現在の農業で野菜を持ってきてはる農家の方の残ったやつについて寄付を受けるとか今のところそれはやってないです。

(増田会長)

あるいは出店している農家の方にね、隠れフードロスって言ってけっこう農業の現場では商品にならないけど、食べれるじゃがいもがあったりするので、そういうのを隠れフードロスっていうんですけど、それがちゃんと食材として変換していくと、フードロスも解消できるし、子ども食堂の運営にもうまくいくみたいな、そんな展開が発生していくといいなと思うんですけどね。

(中井副会長)

わっくカフェの前に野菜を出していただいているのですが、土曜日と火曜日でしたかね。

週2回なんですけど、その方、農家の方なんですけど、その方から商品にならない物を寄付いた

だいたりはしております。

(増田会長)

これ、多分SDGSなんかともね、関連していきますので非常によい行為かと思われま。よろしくお願ひしたいと思ひます。

(中井副会長)

はい。

(新里委員)

軽トラマルシェが、農業を創造する会、そこからお野菜を持ってくるというふうになってるんですけども、地域住民としたら、その、この地域の農家さんとか、なんかそういう泥のついたような野菜があってもいいのじゃないかっていうのは、かなりなんか自分の中にもあるんですね。

そういう地域の農家さんたちで盛り上げてもらおうとか、なんかそういうのも、もう一度、今度あのURの跡地が広場になって、そうすると、そんな感じをね、されたらいいかなって、今もずっとこの創造する会ですかね、そこだけでいってるっていうのはちょっと寂しい気がします。

(増田会長)

よくやるのはマルシェに出店いただいているのは10数店舗かな。ある一定落ち着いてくると反対に、生産現場へ出かけていってその日は各農家の庭先でマルシェしてもらおう。なんかそういう行為をすると、生産現場の方がきてもらってばかりじゃなしにニュータウンの人たちが生産現場へ行くことで、より農業を理解できるとか、より繋がりが深くなると、そういうことも、たまにマイクロバスでも借りられて一度庭先マルシェへ回ってみるようなそういう連携も考えていくことも面白いんじゃないかなと思ひますけども。はい。ありがとうございます。

あと、その次は、先ほど寺池公園についてはわりと詳しくご説明いただいたんですけども、どの木を抜いたらいいとか、どういう風にしたらいいかみたいなことが必要でしたら現地で立ち会って。これはおもしろくて、ちょっとネザサというのは、梅雨が済んで夏になってから刈ってはダメなんです。なんでかという、要するに、葉っぱで貯められた養分が、梅雨を明けて夏になると根に供給されてしまうんですね。だから、根に養分が行く前の梅雨が明ける前に刈り取ると、根に養分が貯まらないので毎年小さくなっていくんです。だから、刈り取り時期としては、梅雨前がいいんですね。

それを3年続けたら非常に小さなモノになりますので、秋とか冬の方が活動しやすいからといってやると、涼しいですからね、十分根に養分がいつていますので、なかなか弱っていかない。だから、根に養分を貯める前に刈るようなことを考えておいたら、効果を発揮できると思ひます。

あとは木を切るのは、基本的にはいつも言うんですけど、木の名前とか種類知らなくても、3人で議論して、3人とも切りましょうということになったら切ったらいいと思ひます。1人が少しちょっと待ったらと言ったら、やめた方がいいと思ひます。ほんと3人いれば文殊の知恵なんですけど本当に3人で話して、やっぱりここはちょっと不要ですねみたいなことは、かなり正解

に近いですから。見にも行きますけど、そんなことをされたらどうかなと思いますけどね。

はい。この寺池公園に関しては何か他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。かなりこれも居場所づくりになってきてると、ただ少しお聞きしていると、やっぱり2時間以上の活動しようと思うと、トイレと、手洗い場っていうんですかね、水栓場所があるというのは活動支援をしているときに、そうでないと、いったん家に帰らなアカんですね。その辺はちゃんと活動が定着していけば、市の方も適切にフォローアップしていくということも必要かと思います。

はい、森木委員。

(森木委員)

ご要望もいただいております、トイレと、あと手洗いということで、ご要望いただいております、トイレの方はちょっと金額も大きいもんですから、ちょっとしばらく考えさせていただくということですが、この6月の補正予算で、手洗い場ですね、確保できましたので、これから業者発注をかけますので、すいませんが次のプレーパークでは間に合わないんですけど、活動には使っていただけるようになると思います。よろしくお願いします。

(増田会長)

徐々にそういう事、インフラが整備されていくと、活動もしやすいかと思います。

(友田委員)

ありがとうございます。やっぱ今言われたように課題っていうのが、水の手洗いの話、トイレの話、そして後バリアフリーの話と、やっぱ足のちょっと弱い方が、ここの公園に来るのも遠くから来たなら来れないんでやっぱり車で行かしてくれて公園楽しむという形にしたいんでやっぱり小さな駐車場がいいんですけども、何台かの駐車場と、そういったもののバリアフリーも含めてね。すると、何らかの構想みたいな絵があってそれに対して地域の方々も一緒に取り組んだり、行政と役割分担するとか、というような体制が必要になるので、やはりその将来構造っていうのをね、やっぱそれは地域でなかなか描けないので、行政としてもいっぺん描いていただきたいなと具体的に、そこはよろしくお願いしますと思います。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。寺池公園よろしいでしょうかね。その次、KON ROOMはいかがでしょう。これも詳しくご説明いただいて、子どもの居場所づくりになってきているということですが、何かこのKON ROOMに関して、補足的な意見はございますでしょうか。いかがでしょうか。あとあのKON ROOMや他のいろんな活動なんですけども、色んな意味で日誌というんですかね。課題発掘のためとか、あるいは子どもが来たときに、強制的にアンケートに書くって話じゃなくて、何か気づいたこと、一行でも書けるような、そういうメモ帳、昔で言う目安箱みたいなそういうものを置いて、皆で効果の検証と同時に課題発掘みたいな、そういう取組をさせていただいて、毎回毎回全員アンケートを書けとかいうのは大変だと思いますので、そういう誰でもちょっと思ったときに、メモを出せるような、そんな仕組みに、どの活動も考えていただくと面白いなと思うんですけどね。今少しそういう効果計測みたいなやつ

はKON ROOMはどうされてるんでしょう。

(上岡氏)

KON ROOMでは増田先生が言っていたように、よくあるアンケート調査で、使ってみて評価をしていただくっていう形になるので、子どもたちは割とその月40、50来てるんですけども4、5人の子がリピートとして使うような状況です。同じ方が何回も使うみたいな状況になってるんで、確かにそういうご意見お聞きしたり、他にお友達連れて行くにはどうしたらいいみたいなこともよく聞いても、面白いかなと思いました。

(増田会長)

ありがとうございます。小野先生いかがでしょうか。こういう活動でよく言われるのはアウトカムの計測とか、どういうふうにして課題発掘につなげていったらいいかということに対して何か、ご提案ございますか。

(小野委員)

はい、直接それっていうわけじゃないんですけども、これ見てて思ったのはやっぱりコワーキングスペースとかの利用者がなかなか難しいとかっていう話なんですけど、じゃあそういう、そういう何ていうかニーズっていうのはないんだろうか、まあ要は、ここはまだエリアにないんだろうかっていう辺りが逆にちょっと気になって。

こういう場ってのはそういう自由にいろいろ自分が使える場としてありますよっていう、そういうメッセージがほんと出ると、先ほど先生がおっしゃった、第3の居場所ですねサードプレイスですね、その役割ってのは非常にこれから重要になってくると思いますし、何かその辺りの、ニーズとどういうふうに合わせていくんだろうっていうのが一番ちょっと気になっていて、先ほど子どもたちも結構、固定化されたメンバーっていう話がありましたので、その広がりですよ。

だから、公園っていうイメージは、誰でも来れますよというイメージで、先ほど寺池なんかねこれからどんどんそうしていきたいとなったんですけど。もう一方でこういう場の建物の中も、そういう場なんだっていうメッセージを、むしろイメージを変えていくような、そんな活動が求められてるのかなあというふうに思いました。本当にコワーキングスペースで自由に使えるんだったら、もっと使いたいっていう人たちが、そんなにいないのかな。皆さんどうなんだろう。私なんか時々、なんかそういう自由な場があったらいいなと思ってるんですけど、その辺りをもうちょっとこうアピールできていくと、新しい使い方の場なんですよっていう形が広まってきそうな感じもしたので、これからの展開、期待という感じになります。はい。

先ほどの効果については、実際にやっぱりこう使ってきてなんぼですので、まずやっぱりまずは使いやすいっていうところを、最初にやったほうがいいのかっていう感じがちょっと考えていまして、はい。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。

(新里委員)

KON ROOMはよく知っているのですが、ちょっとKON ROOM自体ちょっとかわいそうだなと思うのは、狭いってところで、やっぱり利用者はちょっと躊躇するんじゃないかな。

で、子どもたちも、もう4、5人行ったらなんか、もういっぱいだなみたいなところでは空間がちょっと、残念なんかなと思っております。

(増田会長)

大学なんかの情報センターなんかでも、学生が自由に使えるっていう部屋を、基本的に屋内ですけど、オープンスペースという呼び方をしてるんですね。自由空間というふうなイメージをどう伝達してるか、オープンスペースって言葉を建物の中で使ってるんですけど、そんな工夫ですよ。今小野先生のご指摘いただいたり、少しオープンスペースというと少し狭いということがあったり、そんなことかも知れません。

(中井副会長)

先ほどあのKON ROOM、子どもさんとワーキングのスペースとかあるんですけども、基本的に狭いっていうのはありまして、子どもさんの場合はまだオープンであるということがあってよいが、ワーキングの方は逆に個室っていいですかね、非常にあそこで会議をしようとする、イヤホンでやったとしてもしゃべる声はかなり聞こえちゃうんですね。

個室的なものがないので、隣に今会議室があって、その中に入ればいいんですけど、大きな会議室を1人で使うとなると、独占してるようなことになってしまうようなこともあったり、子どもの場と、大人が使う場としてはちょっとありえないところなんかなというのがちょっとありまして、そこらへんの工夫がやりたいんだろうと思うんですが、そのためには、場所が狭いっていうのが最大の欠点かなというふうに思います。

(増田会長)

多分いろんなところでよく、公園なんかの施設なんかでも、大屋根をつけてもらったり、軒下空間を非常に広くして、屋外でもあるし、屋内でもあってというような、例えばこの先ほどあった、ピュア金剛跡地ですかね。そこなんかもほんとに覆いだけがあって、雨風がしのげて、いつでもなんかその下でいろんな行為ができる。なんかそんな使い方も一つ。よくわたしは冗談で、モンゴルに行ってパオっていう大きなテントありますよね、パオを借りてきて使ってみる、仮設構造物っていうんですかね、なんかそんな使い方がいいかもしれないですね。はい。ありがとうございます。

はい。吉村委員、どうぞ。

(吉村委員)

KON ROOMの話とかもありまして、僕もあそこを子どもの居場所として、今後子どもの中心に考えていく方向がされてるんで、子どもがいる場所が絶対いるなと思いつつ、狭いな、といつも思ってるんです。あのスペースどうするかっていう問題は非常に難しいなと思うんです

が、一番のポイントはやっぱり、中央公園、それから、URの跡地と久野喜台の公園があって、寺池の公園があって、当初から4ヶ所を一つのポイントとして考えて、そこにとりあえずどんな機能を持たせるかということ、全体の中で、金剛を発展させていきたいと思いますということだったと思うんですね。

それでいくと今は、KON ROOMとかちょっとバラバラになって狭い場所でバラバラにそういう機能の場所があるんですけども、もうちょっと将来的には例えば中央公園の中にそういう機能を持った、体育館っちゅうことになってるんですけども、そういう機能のある建物っていうか、構造物を作って、それとの関係で、将来的には、例えばKON ROOMもあった子ども用の居場所になるとか、あるいはさっき不登校の話ありましたけれども、そういう子らのおれる場所あるいは相談できる場所、将来的にはやっていくとか、そういう将来を見通して、今後もそれぞれの場所に、どんな機能を持たせていくかという総合的な計画といいますかね、立てていかなくなっちゃったなと思ってまして、特に、まちづくりを考えた時には僕が最初に思っていたのは、中央公園は、スポーツ的な場所、それから、URのところは、文化的な場所というようなイメージやったんですけど。

そういうふうな、どこにどんな機能を持たせた含めたちょっと大きな展望でまちづくりやっていったら、今はこういう形で、小さなところを使うとかね、そうなってますけれども、将来的にはそういう機能を移して行ってやると、何の機能が要るかないうことをもう一度いちから考えて、この大学も入った4つのプランでありましたけど、考えていかなあかんのちゃうかなと思ってますので、その段階で地域の方の意見をまず聞くと、一番最初にあったのが、今年のテーマですか、新たな参加者の獲得と、将来像共有、将来像を共有する場を作るんだと、いうことありましたので、今年はこの将来像の共有づくりの場の中に、個別のこれどうしようかってなくて、もう一つ大きなね、やつをもっかいやり直していったらいいのかなと。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。多分その辺は、ちょうど一番最後の議題で出していただいたウォークブル空間づくり。これがちょうどあって、中央公園から銀座商店街を経て、ふれあい通りを経て、久野喜台1号公園、駅前広場。この辺りでやっぱり展開をするという、そういうビジョンづくりを今されようとしてますので、多分その辺りの、しかもその中で、ビジョンの策定に向けた検討チームでこれはもう、地域の多様な担い手との連携なくして、不可欠だと思いますので、その辺りが展開されるのかなと思いますけどね。

はい、事務局どうぞ。

(事務局)

事務局の方からちょっと補足だけ。

こちらの指針推進協議会であったり、金剛地区まちづくり会議の皆さんにもお話しを色々お聞きしながら、令和4年3月に金剛地区施設等再整備基本構想というものを策定しております、吉村委員おっしゃられた4箇所で、それぞれに向けた大きな導入機能というのはすでに設定の方をさせていただいております。今後もそれを具体化していく中でですね、さらにちょっと細かな点、どんなふうにしていくのか、今ちょっとすでに中央公園の方も動き出しておりますけれど

も、また皆さんと対話を進めながらやっていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひします。以上です。

(増田会長)

ありがとうございます。

あとせっかくご参加いただけてますので、占部委員何か、全体としてウォークブルあるいは大学連携も含めてコメントございましたら。

(占部委員)

はい。ずっと聞いてて以前にもお話してもらったと思うんですけど、子どもの居場所づくりとかっていうことで、学校に行けないような子とかさっきね、廣崎さん言ってたような、友達と会いたくない子とかがいて、ちょっと違うかもわかんないけど、そういう子もいてるし。だんだん環境って変わってきて、日本のそういう文化的な考えが変わってきたなというふうな中で、やっぱりそのハード的な部分だけじゃなくて、前にも言ったそのメタバースとか、そのコミュニティを作る場所ってというのは、ハードじゃなくてソフトのところ結構作っていかなくちゃいけないんじゃないかな、ってずっと思っていました。

(増田会長)

わかりました。もう少しバーチャルの会議みたいなやつがあってもいいかもしれませんね。ありがとうございます。今西委員いかがですか。何かご発言ございますか。

(今西委員)

すみません。はじめて参加させていただいて、色んな企業の方であったり、地域の方、市の方がご参加なさって、一定数に基づいて計画を立てていかれようとしているのを参加して理解したんですけれども、私の立場からの第三包括支援センターとしましては、お子様の話もできてますけれども高齢者の方がどうやって活動に参加していくか、素敵な水辺に参加できたり、カフェに出かけて行けたり、そうした案内もしていけたらと思います。

(溝口委員)

そうですね、私も今さっき先生がおっしゃった金剛駅周辺のウォークブル空間づくり、これについて、いろいろ意見も上げてるわけですから、まずそれがね、行政としてもう少しね、テンポを上げてもらいたい。もうすでにもうこれ、中央公園の問題についてももう5年6年越しになる。せっかくこういう会議の中で、いろんな意見が積み重ねられて、基本構想は、この間発表されてそれに対して、パブコメで、もうそのまんま過ぎて、あと実行する段階にきているわけです。

ですからそれは駅前から、金剛中央公園までで、しかも、特に金剛中央公園についてはもうすでに業務を停止してる体育館になってるわけですね。ですから、早く構想をしてもらえないと、いろいろイベントやる人もできないっていう状況もあると。あともう一つね、ここではもうテーマにならないんですけど、ふれあい大通りってのはなぜ、関西スーパーの信号までなのかと。それより東のT字路までが、駅前からの一本道なんです。ふれあい大通りというのはね、あそこで

途切れてしまって、それ、東の部分については、全然明るさが違うんですね。だからこれはまちづくりの中でも、やっぱり一つのテーマとして今日どうこうってわけじゃなくて、そういう意見っていうのは随分聞いてるんで。今後の課題として、ちょっと頭に入れていただきたいと。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。あと大体皆さんご意見いただいたかと思うんですけど、後は品田委員と島岡委員にご発言いただきたいと思います。

(品田委員)

はい。すいません。都市計画局の品田です。全体を通じてなんですけども、まずわっくカフェとか、寺池公園とかは、市民の方々の取組が進んでいて、まちづくりを進めてるなど感じています。ただこれ立ち上げのときで、しっかりしたリーダーが進められてるんで、今のところいけるんですけども、次につながるようなことになっていけばなと感じております。あと公園と緑の活用という取組では、去年も言いましたけども、隣の狭山市ではですね、狭山池を中心とした水と緑のネットワーク、狭山ニュータウン内でも公園の再整備が行われています。さらに隣の泉北ニュータウン、そこでは、パークPFIを利用してキャンプとかですね、できるような形で大蓮公園が使われている。近所ですね、こんないろんな取組があるんで、そういうものも参考にされたらいいかなと思います。大阪府としても、全体の大規模ニュータウンにするということもありますので、例えば活動部分の団体同士で交流みたいなのがあれば、さらに全体として盛り上がっていくんじゃないかなというふうに感じました。

先ほどもありましたけど、この金剛中央公園からですね、久野喜台1号公園はこれ市域があるんで、この区域でなるんですけど、やはり市民のためにとっては、市域は関係ないんでやっぱり駅前から一緒にこの全体として、ウォーカブルの空間と、ここにはですね南海さんも入っていただいて、全体としてここを全体で盛り上げていくというか、考えた方がいいのではないかと思います。以上です。

(増田会長)

ありがとうございます。島岡委員いかがでしょうか。

(島岡委員)

URです。先ほどお話がありましたピュアの件に関しましては公団の団地、URの団地の中であり、銀座街商店街の中にあるということもありますのでちょっとそのあたりご理解いただければなと思います。担当部署の方には、貴重なご意見ということで対応しておきます。

KON ROOMにつきましては皆様方、狭いという声が多々出ておりますが、KON ROOMは暫定施設だという理解をしておりますので、この辺り将来に向けての課題ということで、認識をしていただければと思います。

この夏休みですね、先ほどチラシにありましたとおり、子どもの居場所づくりということでいろんな取組をKON ROOMでやっていきますけれども、夏休みって全国共通にあるんですけども、KON ROOMのように、自習もしながら、いろんな取組イベントがあるっていうのは

なかなか、他に例がなく、これ非常に先進的な取組というところで、まあちょっと他の団地でもですね、同じようなことを今年の夏はやっていこうということで、なかなかずっと自習室を空けるっていうのは難しいんですけども、1週間程度自習室を空けながら、様々な子ども向けのイベントをやっていこう、というふうなところを他の団地でもやってございます。以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。2時半までと言ってたんですけども、ちょっと延びております。最後に、多分カラーのチラシを配っていただいて大体説明いただいたんですけど、虹色サロンとボランティア便りとパラソルカフェ、この3枚が説明まだなので、簡潔にご説明をいただければと思います。

(新里委員)

この虹色サロン金剛のチラシを見ていただきたいと思います。私、社会福祉協議会で副会長をさせていただいてますので、ちらっとご説明させていただきます。これは1年前に、URをお借りしての始まったんですけども、現在、1ヶ月に500人ぐらい右肩上がりです。利用者が増えております。

で、虹色をつけたの、どなたでも誰でもつけてるんですけど、今、虹色じゃなくって、ちょっと同色系の、状態が続いていますが、高齢者の方々には、良い空間を作っていただいたということで、まずは成功かなと思っております。

ただ、これからはやはり子どもだったり、PTAの方だったり、いろんなやっぱり医療の方々に利用できるような企画をこれから考えていこうということで、させていただきます。

私たち今32名のボランティアで、運営の方させていただいてます。だから社協は、器をしっかりと維持していただくということで、あとはボランティアでやっておりますので、またよろしくお願いいたします。

(増田会長)

はい。他はよろしいですか。ボランティア便りとパラソルカフェ。パラソルカフェは先ほどご説明ありましたかね。

(新里委員)

すいません。それも説明させていただきます。

これは寺池台1丁目と寺池台5丁目の話です。で、伏山台校区福祉委員会の校区にあたります。福祉委員会は私たち、地域町会を元気にしようというような、もともと考え持っていて、ボランティアクラブを立ち上げていただいて、町会を盛り上げていく。これはなぜ必要かっていうと毎年役員が変わるということで、活動がほとんど維持継続できない、っていう問題がありましたので1丁目と5丁目はボランティアクラブを立ち上げて活動されております。モーニングカフェだったりパラソルカフェ、夜桜で竹灯籠、これもとても人気で皆さんが竹灯籠作りに行って100、120ぐらいの竹灯籠を並べて毎年春と秋とさせていただいて、それからあと、年末に

は炊き出し訓練ということで、公園清掃とともに、豚汁を振る舞うというようなことも、ボランティアクラブ、あと町会もね、最近の協力をかなりされてくれてまして、参加者もどんどん増えてるという状況です。

それから、このTシャツ私も毎日来てます。色とりどりの持ってるんですけども、やっぱりアイラブ寺池ということで、やっぱりこれを着ていると、もう知らなくても、おはようとか、もうコミュニティが広がるんですね。いうことで、そういうTシャツ事業みたいなこともさせていただきながら、町会を盛り上げております。5丁目に関しては、ボランティア便りっていうのまで出されてまして、高齢者の方はやっぱり媒体は、もう紙なんです。町会が40%近い高齢者率を誇っておりますので、こういうものを出して、皆さんに参加していただくというような形をとられているという、またこういう町会をね、広めていきたいので、ぜひよろしく願いいたします。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。一応今日予定しておりました案件に関してはだいたい情報交換も含めて、できたかと思えますけど、何かこの際ご発言ございますか。よろしいでしょうか。

今日も出てましたように、もう少し先、いろんな意味で、活動が活発化してるんですけど、行政ももうちょっとエンジン吹かして早めたらというご発言がございましたし、やはり地域と行政との連携というのが不可欠やとか、活動同士間の連携も不可欠というふうな、そういうふうな方向性もいただきましたので、さらに、この再生が進んでいくような、あるいは再生指針が実現されていくようにということでございます。よろしいでしょうか。小野先生もよろしいでしょうか。それでは一言よろしく願いします。

(小野委員)

はい。ほんともう最後で増田先生が最後におっしゃってたいろんなところの連携ということで、さっき新里さんの話を聞いてて思ったんですけど、今いろんな仕事が地域におりてきてる。おりてきてるって変な言い方なんですけどね。でも結構うまくなんか調整されてるようで、下手したらそれがねいろんな仕事がバッティングしちゃって、あれもこれもやらなくちゃいけないって状況になるんですけども、そこを上手くこう、今後の地域で、何ていうかミックスさせる方法今生み出してるんだなっていう感じがして、今日はまちづくり会議のことがメインになりましたけど、新里さんの話の中で自治会も出てきたし、校区福祉委員会のことなんかもありますね。そういういろんなものをやっぱり、うまくミックスさせていかないと、これからは続かないので、それをまさにモデルにして、そこをぜひ行政は見て欲しいと思います。ただ行政の方もそこをどう整理するかってのというのは課題になって、それがうまくできるモデルになっていくかもしれないなと思いました。

(増田会長)

はい。どうも最後に非常にうまいまとめありがとうございます。やはり紡いでいくということが非常に重要だということでございます。ありがとうございます。それでは皆さん方に感謝申し上げます。進行事務局の方にお返ししたいと思います。

(事務局)

はい。増田先生ありがとうございました。

本日は、金剛地区の再生・活性化について、活発なご議論とともに、アドバイス等をいただきまして誠にありがとうございました。また、増田会長におかれましては、円滑に会議を進行していただきありがとうございました。

昨年度から引続き「金剛中央公園・多機能複合施設等整備基本計画」を策定しているところではございますが、皆様におかれましては、策定にあたりご意見等を賜りたいと考えてございます。つきましては、例年2回の会議に加えまして、追加で会議を開催したいと存じます。お忙しいところ大変お手数ではございますが、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。また、開催日につきましては、事務局より追ってご案内させていただきますので、何卒よろしくお願いいたします。

それでは、本日の会議を終了させていただきたいと思っております。ありがとうございました。